

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第61号
平成31年1月31日(木)

新年おめでとうございます。皆様にはお健やかに新春をお迎えのことと存じます。

福島県青少年育成県民会議では、次代を担う若者たちがその役割と責任を自覚し、心豊かに成長することを願い、県内各地の市町村民会議をはじめとする多くの皆様とともに青少年健全育成活動に取り組んで参りました。今年も引き続き、皆様の温かい御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

「青少年ふくしま第61号」では、昨年度実施いたしました「第3回ふくしま青少年育成セミナー」の内容等についてお知らせいたします。

相談現場の実情について理解を深めた 「第3回ふくしま青少年育成セミナー」

《パネルディスカッション》

- ◇ 日時：平成30年11月17日(土) 14:00~15:45
- ◇ 場所：福島市市民会館 301号室
- ◇ テーマ

《不登校・ひきこもり・発達障がいなど》 相談現場から考える ～困難を抱える子ども・若者への支援～

《パネラー》

- ・ NPO法人「ビーンズふくしま」理事長 若月 ちよ 氏
- ・ 子どもを育てはぐくむ教室のびやか室長 山崎 壽克 氏
- ・ 福島県青少年総合相談センター相談員 古川 洋子

《コーディネーター》

福島県青少年会館 館長 鈴木登三雄



◇ 鈴木コーディネーターより

- ・ 子ども・若者を取り巻く課題をテーマに本年度の「ふくしま青少年育成セミナー」を開催し、今回は4回シリーズの3回目になる。
- ・ 学校関係では、いじめや不登校が増え、虐待も伸びている。
- ・ 貧困問題や少年の非行についても課題である。
- ・ 発達障がいについては通常の学級では15人に1人という状況にある。
こうした困難の中から、今日のセミナーでは、主に不登校、ひきこもり、発達障がいを取り上げ、相談現場を踏まえながら、支援のあり方などについて考えていきたい。

□ 鈴木コーディネーター

各パネラーの自己紹介、現場の現状について

《古川》

- ・ 面接電話が多く伸びており、重い数字であると受け止めている。(母親の思い、一つ一つ真剣に受け止めて支援している。)
- ・ 対象者の年齢は30代が多く、相談件数は伸びている。

《若月》

- ・ ひきこもりは増えている。
- ・ 「何とかしなきゃ」「仕事に就きたい」と思っているが、不安で怖い状況にある。
- ・ 周囲の人が理解して、「家にいてもいいじゃない」と思うことも必要である。
- ・ 8割が家族の相談であり、高齢化しているが、相談につながっている。
- ・ 本人相談は4割で、20代~30代が多く、男性(本人)の相談がほとんどである。

《山崎》

《青少年総合相談センター》

- ・ 本人だけでなく、関係者も相談にくる。
- ・ 月1回(第3土曜日)の相談で、電話での予約が必要になる。

《子どもを育てはぐくむ教室「のびやか」》

- ・ 学校教育関係の相談



発達障がい児の学習補習の場、当事者の居場所、保護者との相談として活用している。

- ・ 実態に応じた指導（1コマ45分。予約制）

《NPO法人「スローエクスプレス」》

当事者学びの会で、20歳を過ぎた人が相談にくる。



□ 鈴木コーディネーター

相談業務から見えてくる課題について

《古川》

- 本人の思いを大事にしている。
 - ・ 「迷惑をかけて申し訳ない。」と自己嫌悪に陥っている。
 - ・ 周りの人はゲームばかりしていると思っているが、ゲームしかやることがない。本人は孤立しているため、ネットが外部とつながるツールになっている。
- 愛着障害
 - ・ 幼い頃、親の愛情に満足していないと、大人になっても、母親を求める「幼さ」がある。
 - ・ 「もう、20歳になったんだし」と思う親とのすれ違いが見られる。
- 長期化すると解決に時間がかかる。
 - ・ 「勉強についていけるか」等、新たな悩みが発生する。
 - ・ 不登校になると学習空白ができ、どこかで埋めてあげる必要がある。
- 未然防止
 - ・ ニートや不登校については、未然防止が重要になる。「所属なし」とならないよう学校と切れ目のない支援が重要である。

《若月》

- 県内に約7,000人のひきこもりがいる。
- ひきこもりの難点は世間体を気にすることである。
- 社会的背景として、正社員になれず非正規雇用が多いことがあげられる。
- 「ひきこもり」としてあがった人数は少ない。8割程度である。
- 「ひきこもり」をなくすために、家族との関係をよくする「家族支援」を大切にしている。
- 「ひきこもり支援センター」では、支援をしてつなく、つなくことを大切にしている。

《山崎》

- 専門相談は昨年度35件あり、7,8割は保護者である。
自分なりの価値観をもち、時間がかかり解決の糸口が見えてこない。
- 小・中学校時代、学校から指導を受けることもなく、学校での気づきがなく、そのまま見過ごされるケースもある。
早い時期に発達障がいに気づくことで、周囲の理解を得て、個に応じた指導がより可能になる。
- 不登校経験は多く、長く続くと、保護者の意欲が減退する。

□ 鈴木コーディネーター

課題をまとめると、

《古川》 親子の関係性、困難の長期化、未然防止策の重要性

《若月》 家族の支えのつくりかた

《山崎》 保護者の気づきが欠如し、子どもとのかかわりを見い出せない。

となる。

次に、課題の解決とより良い支援に向けて求められていること。

《若月》

- ・ 相談のハードルが高く、ハードルを下げる必要がある。
- ・ ひきこもりを知ってもらう。民生委員、介護（ヘルパー）の研修等を通して理解促進も必要である。
- ・ 本人も家族も継続して相談にきてほしい。
- ・ ひきこもり支援センターは、県内全域のため身近にある各自治体に相談窓口があるとうい。会津は意識をもって行っている。
- ・ 体制を充実して、つないでいく支援、継続した支援が必要である。
- ・ 家族が支援の仕方が分からない。
例 家族「こうしたらいいんじゃない」本人にとっては難しい。
- ・ 「働きたい」という願いのために、就労支援で職場体験をし、試験を受けるが、面接で落ちることがある。
- ・ 家庭で自信回復できる。
人とのかかわりにおいて「よくやっているね！！」と言葉をかけたり、一歩進んだら、少し休み、またかかわる。エネルギーを貯めて、支援にあたっていくことが求められる。

《山崎》

- ・ 早期の発見が重要である。
- ・ 高校はハードルが高い。関係機関とチームを組み合わせながら支援にあたる。
- ・ 学習支援、生活支援を必要とする児童・生徒に対して、発達支援教室で取り出して指導している。スキルを身に付けさせているが、スキルを身につける場所は多くはない。



《古川》

- ・ 一番大切なことは、家族の関連性が重要であり、本人の気持ちを大切にすること。押しつける（ルールにのっける）のではなく、つまずいたら、自分の意思で選択させるなど、理解をもってかかわる。
- ・ 学習空間として、地域には、資源がない。
公立夜間中学校があるとよい。学び直しができ、これから進んでいくのに必要な学習ができる場となる。
- ・ 未然防止には、学校との連携が欠かせない。

□ 鈴木コーディネーター

セミナー参加者への呼びかけを（○当事者・家族、□支援者、◇行政に分けて）

《山崎》

- 話にくいかもしれないが、相談にきてほしい。
- 時間がかかることであり、保護者のエネルギーをなくさない。
- 当事者を理解し、居場所をなくさない。（上手に支援）
- ◇ 学校でできないことは、NPO等を利用するなど、いろいろな資源を活用する。

《古川》

- 相談するハードルが高いと感じているだろうが、1人で抱え込まない。
- 話を聞くことで、学んでいる。（お互いに勉強）
- 家族の思い、本人の思いに初めて気づくことがある。
- 近所にいたら気づき、「こんな所があるよ。相談してみたら」と、温かい見守りがいる。
- ワンストップ
横のつながり、相談者、支援者との連携を大切にしている。
- ◇ 学校関係者との連携では、日々の働きかけが何よりも重要である。

《若月》

- 早めに相談する。本人も苦しい。
「こうなりたい」「こうしたい」大きな声で叫びたい。
時間がかかり、簡単にはいかない。
- 子どもの頃から「誰かに相談する」ことを学んでおくことで、当事者になった時、気軽に相談できるようになる。
- 本人も家族も楽になる方法
人との関係ってこんなに楽しいことばかり。親に求める。
- ◇ 関係機関の連携
縦割りになってしまう。保健福祉課、教育委員会等、横の連携を大切にする。
「できないのではなく、できるためにどうする。」
- ◇ 貧困問題は家族支援が大切で、早めに相談をする。

□ 鈴木コーディネーター

質問について

Q 幼稚園で発達障がいの子どもがいる。受け入れ体制はできているのか。専門的な人が常駐しているのか。

A 幼稚園では途切れるので、学校に入る時のかわりが重要になってくる。
不登校は個別対応（少人数）

Q 不登校が長期化し悪化しないようにするためには、どうすればよいですか。

A 《古川》

- ・ 簡単なようで難しいが、タイミングを見て背中を押してあげることも大切である。
- ・ 家族がよくなっていく。
- ・ 船出をする時は進めるが、思い通りにいかないと、自己嫌悪に陥るので慎重に支援にあたる。
- ・ 不登校は自信をもたせることが重要。（例）得意教科を伸ばす。

A 《山崎》

- ・ 発達障がいの子どもにはたくさん経験を積ませる。

- A 《若月》
- ・ 見守ることが重要である。
 - ・ 不登校はだめなことではない。
 - ・ 小さな変化に気づくことができるか。
 (例)「茶碗を戻す」「ありがとう」
 「不登校しているんだから、ちゃんとやればいい」ではなく、「今できていることをいかに認めるのか」で、本人に自信をもたせることができる。
 - ・ 親も楽しむ。
 自分の人生を見せる。苦しいことだけでなく、楽しい事も見せる。

□ 鈴木コーディネーター
 まとめ

1 当事者について

- ・ 当事者はSOSを発しづらい。
- ・ 周囲の理解が必要である。

2 つながりの大切さ

- ・ 早めの相談
- ・ 不安はあるが勇気をもって相談する。つながることが家族を力づけることになる。

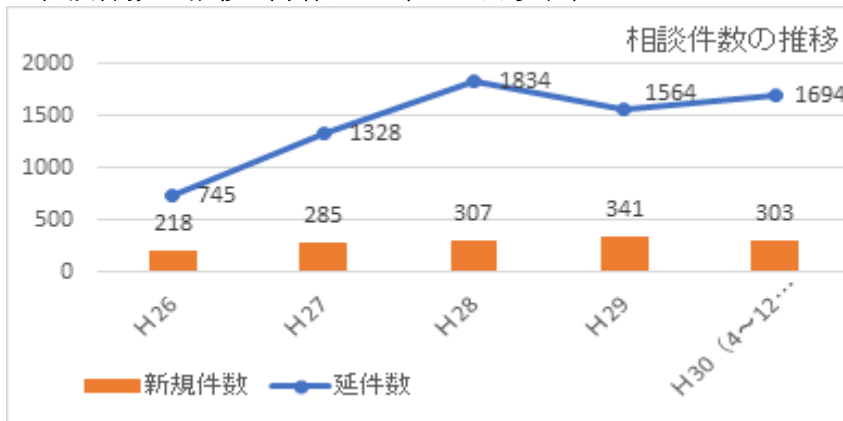
3 支援の仕組み

- ・ 継続して支えて寄り添って支援することが大切。
- ・ 「子ども・若者育成支援推進法」に支援の仕組みが規定されているが、行政が十分に動いていない。
- ・ 平成16年に制定された「発達障害者支援法」にも、市町村にやってほしいことが明記されているが、各市町村により温度差があり、一層の取組みを期待したい。
- ・ 相談支援マップを改訂している。活用していただき、相談支援機関との連携に役立ててほしい。



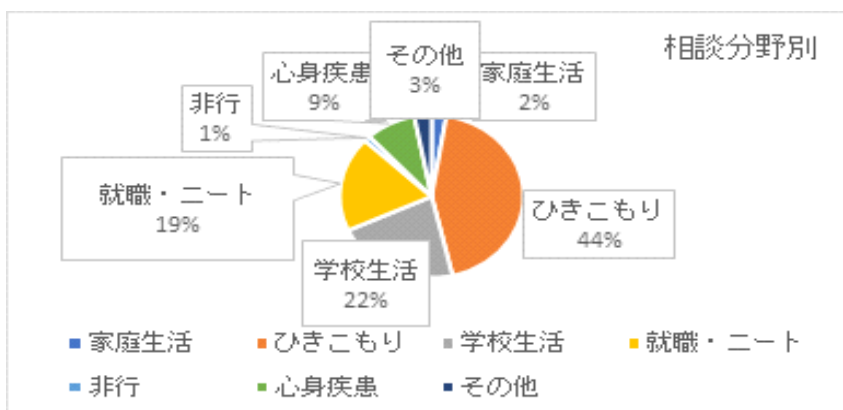
福島県青少年総合相談センター・福島県ひきこもり支援センターの相談状況

1 相談件数の推移 (平成30年12月現在)



- 延件数、新規ともに増えている。
- 相談方法は、電話や面接が多い
- 相談者は、親が多いが、最近は本人からの相談も増加している。

2 相談の内容 (平成29年度)



- 相談内容は多岐にわたっている。
- 不登校は、学校生活に分類している。
- 発達障がいは、心身疾患に分類している。